

知性・情操・健康・友愛の調和のとれた発達を目指す

田辺中だより

No.7 令和4年11月2日発行

京田辺市立田辺中学校

京田辺市興戸北鉾立2-1番地

TEL:0774-62-0021 FAX:0774-62-5099

学校ホームページURL【<http://www.kvotanabe.ed.jp/nc21/tanabe-ih/htdocs/>】

学びの秋、語らいの秋

教頭 佐々木 みゆき

今年は全校での合唱コンクール、体育大会を3年ぶりに開催することができました。コロナ禍で制限もある中で工夫をしながらみなさんはとてもよく頑張りました。中でも3年生は1、2年生の時にこのような行事ができず、初めて経験すること多い中で自分たちで考え、先輩として1、2年生を引っ張り、しっかりと取り組んでくれました。先日行われた体育大会までの取組期間中にはグラウンドから歓声があふれており改めて学校行事の大切さを感じることもできました。性格も体格も考え方も違うみなさんが、お互いに認め合い、高め合い、支え合うことで、よりよいクラスや学年に成長すること、そしてそのことが自分自身の成長につながるということを学んでくれたのではないかと思います。

さて、学びの秋について書きたいと思います。廊下から、また時には教室に入らせてもらい授業を参観させていただくことがあります。苦手な人も得意な人も楽しそうに元気に授業を受けている姿を見ます。タブレットも上手に使っていて感心することがとても多いです。一方でみなさんの課題として家庭学習の時間が少ないということも耳にします。家でしっかりと復習はできていますか？次の日に授業がある教科を少し予習していくことはできていますか？また自分がもっと知りたいことについて調べてみたりしていますか？学校ではみんな同じ進度で学習していくことが多くなります。時には自分の興味あることについて授業でじっくり取り組むことが難しいこともあります。是非、授業を受けている時に「これ面白いな。もっと知りたいな、調べてみよう。」等と感じたらそれを持ち帰って自分のペースで追及（追求）してみてください。知りたいこと、わかりたいこと、考えたいことは人それぞれ違っていいと思います。自分で疑問に思っ、そのことを自分で調べてわかる体験をしてください。本当にわくわくすると思います。是非授業をきっかけに家庭学習につなげて自分の学びの幅を広げていってほしいと思います。

加えて11月は「教育相談月間」でもあります。放課後の時間を使って担任の先生とゆっくり話ができます。少し自分が困っていることを話してもいいし、普段の自分の頑張りを聞いてもらってもいいかもしれません。先生たちも一人ひとりの生徒のことを考え、加えて生徒と向き合う時間を大切にしていきたいと思っています。私も担任をしていた時、この11月の教育相談が楽しみで仕方ありませんでした。教育相談を終えてさらにみなさんが元気で安心して学校生活を送ってくれることを願っています。

今後の予定

10月31日（月）～11月4日（金）	学校公開週間、文化発表会（展示）
11月 1日（火）	教育相談月間（～30日まで）
11月 4日（金）	文化発表会展示（最終日）
11月 7日（月）	生徒会引継ぎ式
11月 8日（火）	3年生進路面談（～14日まで）
11月 9日（水）	第61回近畿地区技術・家庭科研究大会
11月11日（金）	小6体験入学 （田辺小学校、薪小学校、普賢寺小学校）
11月15日（火）	一斉委員会
11月16日（水）	PTA 登校指導
11月17日（木）	スケアードストレート
11月18日（金）	社会人セミナー（1年生）
11月21（月）22日（火）	期末テスト
11月25日（金）	小6体験入学（三山木小学校）

体育大会10月21日（金）

秋晴れの下、体育大会を実施しました。「響走～仲間と共につかむ勝利～」をテーマに午前中は学年別開催、午後からは創作集団演技やブロック対抗リレーに取り組みました。
グラウンドには8色のはちまき姿の生徒の笑顔があふれました！！



体育大会結果

総合の部 優勝 白ブロック（1－2、2－3、3－5）
 2位 黄ブロック（1－4、2－1、3－7）
 3位 紫ブロック（1－5、2－2、3－3）

レスキュー綱引き 優勝（1－5、2－2、3－1）

大縄跳び 優勝（1－2、2－7、3－5）

巨大早めくりオセロ 優勝（1－4、2－6、3－8）

全員リレー 優勝（1－4、2－3、3－8）

ブロック対抗リレー男子 優勝 赤ブロック（1－3、2－8、3－1）

ブロック対抗リレー女子 優勝 橙ブロック（1－6、2－4、3－8）

団結賞 赤ブロック（1－3、2－8、3－1）

集団演技 優勝 桃ブロック（1－1、2－7、3－4）

結果発表前



発表後



お知らせ

10月31日（月）から11月4日（金）の一週間学校公開週間、文化学習発表会（展示の部）となっております。是非学校に足をお運びいただき日頃の生徒の様子をご覧くださいけたらと思います。
美術部やサイエンス部の部活動での制作物に加えて各教科や若草学級の制作物を校内に展示しています。

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて

校長 脇本 佳彦

<はじめに>



今年4月19日に、3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析して、各都道府県・市町村教育委員会、及び学校がその改善を図るために実施されています。ただし、この調査の結果が生徒たちの持っている学力をすべて表すものではないことにも留意していく必要もあります。

本校としては、この調査の結果を単に特定の学年や特定の教科の特色として捉えるのではなく、学校全体の教育の成果や課題の検証や、今後の指導改善に役立てていきたいと考えています。今回は、国語・数学・理科の学力及び、生徒の家庭や学校での学習状況・生活状況の調査が行われました。以下、それらの調査で明らかとなった本校生徒の特徴についてお知らせします。なお、一人一人の得点が明記された個人票は、11月の面談にて返却の予定をしています。3年生の保護者の方は、そちらも合わせてご覧ください。

<国語>

国語は全国と京都府の平均正答率より上回りました。「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項の範囲で大きく上回りました。また「思考・判断・表現力等」のC読むことの項目においても上回りました。特に問題形式の短答式の問題では、正答率が大きく上回りました。週末課題で語句調べなど、言葉に関する課題を継続的、自主的に取り組んで来たので、その成果が表れているのだと思います。

また、「書くこと」の分野での「目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈したりできるか」を見る問題では、条件を満たして回答できていること、無回答率が全国・京都府に比べて非常に低く、問題と向き合い真摯に解き明かそうとする姿勢が見られることから授業での「書く」活動を意識して取り入れている成果だと言えます。

今後も言葉に対する興味関心を持ち、実生活と結びつけながら自分の考えを相手に伝えられるような取り組みを重視していきます。

<数学>

数学は、京都府の平均正答率と同等、全国の正答率を若干上回りました。しかし、「知識及び技能」の「自然数を素数の積で表すことができる」という問題では、見当違いの間違いが半数近くいました。素因数分解は一年生での学習範囲であるため、意味を考えて定着を図る取り組みが必要です。また「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」という「思考・判断・表現力」を見る問題では、途中まで計算ができているにも関わらず、その式が何を表しているのかが理解できていないため正答率が低かったと考えられます。このことから式の意味を考えるという点に弱さが見られます。

しかし、記述式の問題や「思考・判断・表現力」の正答率は全国や京都府の平均正答率を上回るなど知識や技能を整理することで、より学力が伸びる可能性があることがわかりました。

今後は、知識の丸覚えではなく、なぜそうなるのかを考えることで、その解き方に意味を見出すこと、思考の流れをフローチャートにし生徒自身に作らせることなどの手立てを行うことで思考の流れを整理していきたいと思っています。

<理科>

今年度は理科的分野の調査も行われました。理科は全国や京都府の平均正答率と同等でした。「粒子」を柱とする領域に関する問題が全国や京都府を上回り、「地球」を柱とする領域に関する問題において全国や京都府を下回りました。全国や府の正答率と比べて大きく下回る問題の多くは知識を問うものでした。問題文の正確な把握(言語能力)、視点の移動や全体を俯瞰してみる力、見えないものを想像する力(空間認知能力)、実験操作の意味や実験結果からどんなことが言えるか、などの論理的思考力が全国や府と比較してやや弱いと言える。生徒の興味関心を高めつつ、基礎・基本の定着を図る授業展開を工夫していくとともに実験等の機会を活用し、現象の証明と反証を行うなど論理的に順を追って考える力を育てていきたいと思っています。

＜質問紙＞ 国語・数学の教科の内容とは別に、生徒の学習や生活習慣等に関する質問も実施されました。その結果から見えてくる本校生徒の特徴を以下にまとめています。

○田辺中学校生徒の強みと弱み



質問紙から田辺中学校の強みと弱みが分かってきました。学校に対しては楽しい場所でみんなが安心して通える場できているということ、教師との関係も良好で多くの生徒は悩み事を担任や教師に対して相談できるということが分かりました。教科についても各教科に対して前向きな姿勢で学ぼうという生徒が多かったです。今年度は昨年度に比べて「自分でやると決めたことはやり遂げようとしている」という問いに対して「できている」と答える生徒が増えてきています。

課題としては、学習に対して何のために学んでいるか分からないという生徒が少なからずいるという点が挙げられます。そのため、自宅学習の時間が全国平均と比べて少なく、家庭学習時間が30分以下という生徒が全国平均と比べて多いという結果になりました。

○自律した学習者を目指して

本校では「協働的に課題解決する力、挑戦する力を身に付け、『自律した学び』のできる生徒の育成—生徒も教師も主体性—」を中心研究テーマとして教育活動を展開しています。この力をつけるために本校では自己効力感（自分はできる）、繋がる力（他者とうまく関わる力）、挑戦する力（失敗を恐れず挑戦する力）を大切に基礎学力の定着、協働する場面を授業、学級活動、行事でも心掛けてきました。アンケートからも①課題解決に向けて取り組む授業②自分の考えをまとめる授業③学級の生徒間で話し合い自分の考えを深め広げる授業についてのアンケート項目は、府・全国平均と比べて非常に高い数値を示しています。このことから学校での学びを家庭学習へとつなげ更に深く学ばせていくための工夫をしていきたいと思えます。



○非認知能力の育成



最後に田辺中学校の生徒のさらなる資質能力育成のために、教育界で注目される非認知能力（意欲、忍耐力、自制心、創造性、社会的適性、回復力と対処能力、やりぬく力、自己効力感）について触れたいと思えます。質問紙から浮かび上がってきた本校の課題は、自宅学習や発展的学び、より高みを目指し、深い学びを追求する力にあります。これらの力は、先ほど述べた非認知能力が下支えしています。非認知能力の高さは、将来の学歴や年収に直結しているという研究結果も出ています。本年度から SELF の授業を使って1年生では、心アップタイムと称し①困難は自力で乗り越えられると知る②集団活動を通じて、自分や友人のために使えるスキルを身に着ける③精神的な症状に対する偏見を解消するという3つを柱に年間を通じて取り組んでいます。

2年生、3年生では、集団の中でのコンセンサス（合意形成）をテーマに2年間で12回の講座を設けて子どもたちがテーマに沿った内容の学習を進めています。

学校教育の中でも、点数や成績にだけ目を向けるのではなく、それらを支えている力に目を向けたそれぞれの生徒の実態を理解し、個別最適な学びを通して非認知能力を育くんでいくような指導を行っていきます。